

日本と世界のジェンダー

ジェンダーギャップ指数からみる「日本のジェンダーを取り巻く現状」を踏まえ、世界中のガールスカウトとの交流を通してわかった「世界のジェンダーを取り巻く現状」についてお伝えします。

ジェンダー・ギャップ指数2021からみる日本の現状

世界経済フォーラムが2021年3月に公表した、「The Global Gender Gap Report 2021」によると、日本のジェンダーギャップ指数は156カ国中120位と依然として低い状態が続いています。特に「政治」「経済」分野における順位は低く、日本の対応が各国に比べ遅れをとっていることを示しており、今後より一層ジェンダー平等に向けた努力を加速することが求められています。

それでは、順位の異なる各国の現状はどうなのでしょう？日本のガールスカウトが世界のガールスカウトとの交流を通じてわかった「世界のジェンダー」についてお伝えします。

4位 ニュージーランド

東京2020大会では、トランスジェンダー男性選手が女性代表として出場するなど、ジェンダー平等が進むニュージーランド。

特に、政治分野では性別に限らず多様な背景を持つ人材登用が進んでいます。歴代4番目となる女性のアーダーン首相は史上初・首相で育休取得したことでも注目されています。しかし、男女の所得・昇進速度には差があり、まだ課題もあることがわかりました。

交流した20代のリーダーが、「課題はまだあるが、メディアなどで頻繁に発信される機会が多くなったおかげで、課題がオープン。そこが日本と違うのではないかな。」と語ったのが印象的でした。



▲交流の様子

5位 スウェーデン

スウェーデンでは、ガールスカウトを「スカウター」と呼び、写真の様に男女一緒に活動しています。スウェーデンのある会社では、ジェンダー平等よりも、EDI（平等、多様性、包括性）に重点を置いているそうです。

1つの会社の例でスウェーデンの全てはわかりませんが、ジェンダー平等だけでなく、全ての人々が差別なく対等な立場で働くことができる取り組みは多くの地域で取り入れられるべきものであると思いました。



▲活動の様子

17位 フィリピン

フィリピンのジェンダーギャップ指数は17位で、アジア圏で一番高い数値です。

しかし、身近なジェンダー問題では、制服が男女で選べない点や、男性がメイクをすることは世間的に受け入れられないことなど、日本と多くの共通点がありました。

このことから日本と状況は似ていますが、ジェンダーギャップ指数の順位が異なることは政治での取り組みの違いだということがわかりました。

政治の分野では、ジェンダー問題に対する対策が多く取られています。特に驚いたことは、ジェンダーに関すること、女性保護に関する教育方針についてを法律で定めていることです。国が女性を守る取り組みを多くおこなっていることがわかりました。



▲交流の様子

30位 アメリカ

カリフォルニア州北部にある、サクラメント市のガールスカウトと「me and them」オンラインプログラム*を用いて交流しました。

日本のガールスカウトの意見と共通点も多くあった中、違いが見えた点として

- ①学校の制服はないが、自由な服装でも女性の方がしばられている。
- ②将来の夢を聞いたときに、キャリアウーマンを目指す女の子が多い。この2つのことを知ることができました。

日本でも強い女性を目指す女の子が増えれば良いなと思いました。



▲交流の様子

アラスカ州のガールスカウトと交流して印象に残ったことは、CAの男女比が大体同じであることです。

しかし、小学校の教員は女性が多く、中高生世代になると男性が多くなるのは日本と似ており、男女の人数比において共通の部分があるんだなと感じました。

また、学校にLGBTQ+クラブのような活動があることに驚きました。日本は個人のアイデンティティに関わる部分であるため、オープンな話題、気軽な話題にしづらい雰囲気があるとなくあるように思います。



▲交流の様子

*「me and them」オンラインプログラム：ジェンダー平等の実現を目指しガールスカウトが内閣府とともに開発したプログラム

66位 ウガンダ

ジェンダー・ギャップ指数2021では日本よりも上位のウガンダですが、ジェンダー問題の状況は日本と同じようでした。

男性は強くなければならない、コロナ禍で女性の負担が増えた、女性がリーダーシップを発揮することに対して消極的など、共通する点がありました。驚いたのは、ウガンダでは女性の生理に関する理解がなく、汚いものとされていることです。生理中の女性は料理をしてはいけないなど、生理に対して偏見があり、それを解決すべくジェンダー平等の活動を続けているそうです。



▲交流の様子

67位 ホンジュラス

ホンジュラスとの交流で驚いたことは「ホンジュラスは差別がない！（少ない）」という発言です。

中南米にあるホンジュラスは、もともと混血の民族から成り立つ国なので、見た目や考えが異なることを理由に差別することはないと教わりました。日々生きるか死ぬか、そのはざままで生活しているため、彼らは家族や親戚をととても大切に、当たり前にお互いを尊重しています。同じ時間を生きていても日本とは違う社会なのだ改めて考えさせられました。

直接ジェンダー問題に繋がることではないかもしれませんが、人々の意識の違いもきっとジェンダーの意識の違いとなって表れてくるのだろうと思います。



▲交流の様子

102位 韓国

学校・メディアでジェンダーバイアスを感じる瞬間について、話し合いました。

学校では、性別によって制服の形や素材が違い、性差を感じるそうです。メディアでは、インターネットの普及率が高いため、テレビではなくネットニュースやSNSの方がジェンダーバイアスへの影響が大きいそうです。

最近「82年生まれ、キム・ジョン」の本や映画で社会現象が起き、ジェンダー尊重の雰囲気があるようです。ジェンダーの発言に対し炎上が起きやすい、との声もありました。日本と同じように、近年ジェンダー意識が高まってきている様子がうかがえます。



▲交流の様子



▲世界の少女の物語を盛り込んだ少女人権増進を目標とした活動の様子

世界中のガールスカウトと交流し現地の様子や現状を直接聞くことで、日本と似ている部分、そうでない部分、さまざまな背景など、日本にいただけでは知ることのできない新たな気づきや発見がありました。「世界のジェンダー」について知ってわかったこと、それはジェンダーギャップ指数の順位に関わらず、どの国も同じくジェンダー平等実現に向けた課題意識を持っている、ということではないでしょうか。